

# JACET中国・四国支部 Newsletter

## 第 26 号

### 目次

1. 巻頭言	支部長 岩井 千秋	pp. 1-2
2. 2020 年度秋季支部研究大会報告	事務局幹事 岩中 貴裕	p. 3
3. 2020 年度支部第 2 回役員会報告	事務局幹事 岩中 貴裕	p. 4
4. 2021 年度春季研究大会発表応募要領		p. 4
5. 2021 年度『JACET 中国・四国支部研究紀要』投稿募集		p. 5
6. 事務局だより		pp. 5-6
編集後記		p. 7
【重要】ニューズレター (NL) 配信についてお願い		p. 8

## 1. 巻頭言

中国・四国支部長 岩井 千秋

支部会員の皆様、明けましておめでとうございます。歴史に刻まれること必然のパンデミック 2020 年から新たな年を迎えました。年越しとともにこの混沌と悲痛から解放されるのであれば嬉しいのですが、事態は深刻化する一方、否が応でもこれから

始まるワクチン接種に安全への願いとコロナ終息への期待が高まります。近年多発する自然災害や世界各地で繰り返される紛争・戦争を目にするたびに、「普通」であることのありがたさを思い知らされます。この度のコロナ禍もまた然り、私たちの生活

が一日も早く「普通」に戻ることを願わないわけにはいきません。

コロナは私たちの学会活動にも次々と難題を突き付けてきます。本ニューズレター前号(2020/7/30付けの25号)にて、2020年次国際大会の中止と、私たちの支部で開催予定の2021 JACET年次国際大会についてご報告しました。その後、大きな動きがありましたので、これを含め、重要事項をご報告しておきたいと思えます。

その筆頭は、安田女子大学を会場として開催予定であった年次国際大会が、今年の8月に中止決定されたことです。大規模の大会ですから、準備の日程を逆算すると、8月が決定のタイムリミットでした。代わりにオンラインでの開催となり、これについてはすでにメールや郵便物で全会員に通知されたとおりです。一口にオンラインと言っても、一般の研究発表だけでも200件を超える学会ですから、その運営となると一筋縄ではいきません。

そこで、JACETでは、昨年12月5日と6日に行われたJAAL in JACETを本番の前哨戦(予行演習)と位置づけ、様々なテスト運用が行われました。私たちの支部からも、研究発表のみならず、何名かの先生方が運営委員や司会として当日の運営にご尽力されました。実行委員長による理事会での事後報告によると、万事滞りなく研究発表等が行われ、8月の国際大会に確かな手ごたえを感じられたようです。ただ、本番の大会準備に向けて人手がまったく足りていないようです。支部会員の皆様の中で、実行委員としてお力添えいただける方がありましたら、是非支部長の岩井までメールでお知らせください。本部実行委員会への橋渡しをいたします。裏方業務は苦勞もありますが、他支部の先生方とも交流できるいい機会でもあります。

私たちの支部の活動もコロナに翻弄されました。昨年6月の春季支部研究大会は開催の目途が立たず、断腸の思いで中止しました。続く秋の大会はどうしても開催したく、支部役員会でオンラインによる開催を決定しました。蓋を開けてみると、4件の

発表があり(詳細は3頁)、40名の先生方にご参加いただきました。研究発表終了後に、オンラインオフ会の場を設けました。やはり学会にはこういう交流の場がどうしても必要なことを痛感しました。総じて、このオンライン支部研究大会は盛況であったと感じています。ご参加いただいたすべての先生方に、心よりお礼申し上げます。

次に、支部の研究紀要についてひとつご報告があります。この紀要初の試みとして次号18号に「特集」のコーナーを設けました。テーマは、「オンライン授業を含むコロナ対策英語授業の実践報告」です。今年の9月に支部メーリングリストで皆様にご案内を差し上げたところ、多くの先生方に玉稿をお寄せいただきました。この企画にご賛同いただいた先生方にお礼申し上げます。私はすでに読ませていただきましたが、遠隔授業への創意工夫が盛りだくさんで、とても参考になります。また、先生方のご苦勞や、人間味あふれる教師愛に私は心を打たれました。4月上旬に皆様のお手元にお届けできる予定、「乞うご期待」です。

最後に、支部役員人事について重要なお知らせがあります。昨年10月の支部役員会で来年度の人事について協議しました。その結果、支部長に現在支部幹事ご担当の岩中貴裕先生(山口学芸大学)が選出されました。副支部長は現副支部長の高橋俊章先生(山口大学)に続投いただきます。それから、現幹事の岩中先生に代わり、次は寺嶋建史先生(松山大学)にご担当いただきます。いずれも昨年12月のJACET理事会で承認されましたが、正式な決定は今年の6月の社員総会を待つ必要があります。

ということで、私が支部長としてこの巻頭言を担当させていただくのも今回が最後となりました。毎回の拙文は平にご容赦いただくとして、この場を借りて皆様に厚くお礼申し上げます。支部長は交代しますが、人望の厚い岩中先生ですから、安心してバトンタッチできます。今後は皆さんと一緒に支部の活動を盛り上げていくことができれどと思っています。岩中先生、どうぞよろしくお願ひします。(広島市立大学)

## 2. 2020 年度秋季支部研究大会報告

事務局幹事 岩中 貴裕

2020 年度 JACET 中国・四国支部研究大会は 10 月 17 日（土）に山口学芸大学で実施する予定でしたが、コロナ禍のため遠隔での実施となりました。合計で 40 名の参加となりました。

発表は以下の 4 件でした。

- (1) “The Roles of the L1 and L2 in Remote Learning” KAWAMOTO, Julia 先生（愛媛大学）、CARSON, Eleanor 先生（松山大学）、WILLEY, Ian 先生（香川大学）
- (2) “To What Extent Can Teachers Promote Positive Learner Attitudes Towards Reading English Through the Use of a Digital Library?” HOUGHAM, Daniel 先生（広島女学院大学）、PECK, Marshall 先生（広島女学院大学）
- (3) 「小島信夫『アメリカン・スクール』の“英語”に関する一考察」高垣俊之先生（尾道市立大学）
- (4) 「オンデマンド型オンライン授業としての英語科目の実践報告」森田光宏先生（広島大学）、天野修一先生（広島大学）、榎田一路先生（広島大学）、鬼田崇作先生（広島大学）、草薙邦広先生（広島大学）、阪上辰也先生（広島大学）、高橋有加先生（広島大学）、中川篤先生（広島大学）

コロナ禍で多くの大学は遠隔授業を行っています。今回の発表のうちの 3 件は遠隔授業に関する内容でした。以下、4 件の発表について簡単に説明させていただきます。

愛媛大学の KAWAMOTO, Julia 先生たちによる発表は、遠隔で授業を行う際に授業担当者が母語と目標言語をどのように使い分けているかについてでした。58名の教員に対して実施したアンケート結果についての報告がなされました。

HOUGHAM, Daniel 先生たちは、デジタルライブラリーの使用によって学習者のリーディングに対する肯定的な態度を育むという試みについて発表されました。オンラインによる指導であっても、学習者のリーディングに対する積極性を育むことが可能であるという報告がなされました。

高垣俊之先生は、小島信夫が 1954 年に発表した『アメリカン・スクール』の登場人物が用いる英語を分析するという内容の発表をされました。Sibley (1977) の英訳との対比によって、日本語で表された英語の発話を主な登場人物一人ひとりについて考察を加え、その特徴についての報告が行われました。

森田光宏先生たちは、所属先の大学で実践されたオンデマンド型のオンライン授業についての報告をなされました。市販のオンライン教材と LMS の両方を活用した授業実践報告は、大学で英語教育に携わる我々にとって非常に有益な内容でした。

研究発表が終了した後も大勢の参加者が遠隔の会議室に残り、しばらくの間、親睦を楽しみました。遠隔であっても、研究会の実施は可能であることが確認できたのではないのでしょうか。

最後になりますが、参加者の皆様、役員の皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。次回は対面で研究大会が実施できることを祈りましょう。

### 3. 2020 年度 JACET 中国・四国支部

#### 第 2 回役員会報告

事務局幹事 岩中 貴裕

2020 年 10 月 17 日(土)に遠隔で開催された第 2 回支部役員会にて、2021 年度の事業計画(案)、予算(案)および人事(案)について話し合いが行われました。暫定的ではありますが、お知らせいたします。

1) 春季研究大会

日程：2021 年 6 月 5 日(土)

場所：香川大学

(香川県高松市幸町 1 番 1 号)

2) 秋季研究大会

日程：2021 年 10 月 16 日(土)

場所：山口学芸大学

(山口市小郡みらい町一丁目 7 番 1 号)

3) Oral Presentation & Performance  
(OPP) 研究会

日程：12 月 12 日(日)

場所：未定

4) 支部紀要・支部ニューズレター

・『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』  
(第 19 号)

発行：2022 年 3 月 31 日(予定)

・支部ニューズレター

発行：2021 年 7 月 30 日(第 27 号)、

2022 年 1 月 10 日(第 28 号)(予定)

### 4. 2021 年度春季研究大会発表募集要領

2021 年 6 月 5 日(土)に 2021 年度春季研究大会が開催される予定です。下記のとおり、研究発表の募集をいたします。奮ってご応募ください。

支部春季研究大会

日時：2021 年 6 月 5 日(土)

場所：香川大学

(香川県高松市幸町 1 番 1 号)

A) 応募情報(英語での併記もお願い致します)

a. 発表題目(Title)：日本語と英語

b. 種別(Style)：自由研究発表, 実践報告,  
事例研究など

c. 氏名(Name)：

d. 研究領域(Research Area)：

e. 概要(Abstract)：目的、背景、仮説、方法、結論、引用文献など日本語の場合は 600 字以内、英語の場合は 250 words 以内とする。

f. 所属(Affiliation)：

g. 使用機器(Equipment needed)：

h. 連絡先(Contact Address)：メールアドレスなど

B) 申込応募期間

■2021年5月20日(木)  
午後11時59分まで

■申込先

下記支部HPの申込フォームをご利用ください(発表, および懇親会への参加申込ができます)。

<https://ws.formzu.net/dist/S78585634/>

C) プログラムおよび発表スケジュール詳細は支部会員ML, および支部HPでお知らせします。(支部会員MLへのアドレス追加をご希望の方は事務局までご連絡ください)。

■問い合わせ先

事務局幹事 岩中貴裕 (山口学芸大学)  
iwanaka@y-gakugei.ac.jp

## 5. 『JACET中国・四国支部研究紀要』第19号 投稿募集

質的研究や量的研究など様々な観点に基づく論文, リサーチ・ノート, 実践・研究報告, およびブックレビューの4つの分野の研究成果を発表する場として, 年一回3月に支部紀要を刊行しています。

応募資格は, 所定の学会費を完納した支部会員とします。ただし委嘱原稿については, この限りではありません。

投稿論文は, 原則として過去2年以内に開催された全国大会および支部大会で発表を行った研究にもとづくものが望ましいです。

審査は, 委嘱原稿を除き, 紀要編集委員会が指名する審査員が担当し, 査読の結果を踏まえて編集委員会が採用の可否を決定いたします。

JACET中国・四国HPにある投稿規程をご参照の上, 奮ってご応募ください。

なお, 発行までの日程は原則として下記のとおりです。

- 投稿原稿締め切り: 10月末
- 審査結果通知: 12月末
- 修正原稿締め切り: 1月末
- 刊行: 3月末

なお, 投稿資格は, 所定の学会費を完納した支部会員に限ります。複数名による投稿の場合には, 必ず本支部会員1名を含むこととし, その他の投稿者も論文投稿時にはJACET会員でなければなりません。

投稿先: 支部HP フォームズから(詳細はニューズレター次号でお知らせします。)

お問い合わせ: 紀要編集委員会委員長  
中山晃 (愛媛大学)

E-mail:

[nakayama.akira.mm@ehime-u.ac.jp](mailto:nakayama.akira.mm@ehime-u.ac.jp)

※次号から編集委員長が変わります。

## 6. ～事務局だより～

2020年8月から2020年12月までの新入会員をご紹介します。

### ★新入会員紹介★

池田幸恵 (非常勤)  
WEBBER, Scott (愛媛大学)  
PECK, Marshall (広島女学院大学)  
SHARPE, Michael (高知大学)  
(敬称略)

皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

2021年度の支部人事および本部運営委員をお知らせいたします。

### ★2021年度支部人事★

(2021年6月定時社員総会まで)

#### 【支部役員】

支部長 岩井千秋 (広島市立大学)  
副支部長 高橋俊章 (山口大学)

支部幹事 (\*は事務局幹事)

\*岩中貴裕 (山口学芸大学)  
山中英理子 (広島国際大学)

支部会計担当者  
関谷弘毅 (広島女学院大学)

支部研究企画委員 (28名)

五百蔵高浩 (高知県立大学)  
池野修 (愛媛大学)  
岩中貴裕 (山口学芸大学)  
WILLEY, Ian (香川大学)  
上西幸治 (福山大学)  
榎田一路 (広島大学)  
折本素 (愛媛大学)  
小崎順子 (川崎医療福祉大学)  
小山尚史 (岡山大学)  
関谷弘毅 (広島女学院大学)

高垣俊之 (尾道市立大学)  
高橋俊章 (山口大学)  
瀧由紀子 (松山大学)  
田辺尚子 (福山平成大学)  
田淵博文 (就実大学)  
DANTE, Lawrence (就実大学)  
寺嶋建史 (松山大学)  
長崎睦子 (愛媛大学)  
中住幸治 (香川大学)  
中山晃 (愛媛大学)  
二五義博 (海上保安大学校)  
平本哲嗣 (安田女子大学)  
堀部秀雄 (広島工業大学)  
松岡博信 (安田女子大学)  
三熊祥文 (広島工業大学)  
三宅美鈴 (広島国際大学)  
山川健一 (安田女子大学)  
山中英理子 (広島国際大学)

#### 【本部委員】

理事 岩井千秋 (広島市立大学)  
総務委員会 (支部事務局幹事)  
岩中貴裕 (山口学芸大学)  
財務委員会 (支部会計担当者)  
関谷弘毅 (広島女学院大学)  
国際大会組織委員会本部  
山川健一 (安田女子大学)  
『JACET 通信』委員会  
松岡博信 (安田女子大学)  
学術出版委員会紀要担当  
平本哲嗣 (安田女子大学)  
セミナー事業委員会 サマーセミナー担当  
田淵博文 (就実大学)  
研究促進委員会  
長崎睦子 (愛媛大学)  
学術交流委員会  
堀部秀雄 (広島工業大学)  
大学英語教育学会賞運営委員会  
池野修 (愛媛大学)

★支部紀要・ニューズレター発行予定★

- 『JACET 中国・四国支部研究紀要』第 19 号  
2022 年 3 月 31 日刊行（予定）

- 『大学英語教育学会中国・四国支部ニューズレター』  
2021 年 7 月 30 日（第 27 号）発行（予定）  
2022 年 1 月 10 日（第 28 号）発行（予定）

【編集後記】

2020 年 12 月 14 日に「今年の漢字」が発表されました。2020 年の漢字は「密」だそうです。2 位は「禍」、3 位は「病」と否定的なニュアンスの漢字ばかりです。

しかしベネッセホールディングスが行った調査によると、小学生児童が選んだ「今年の漢字」のトップ 3 は「笑」、「幸」、「新」だそうです。「コロナでも笑顔で頑張れた」、「家族と過ごす時間が幸せ」、「新しい世界や楽しみを味わった」等の理由が挙げられていました。

子どもの逞しさと柔軟さに脱帽です。「負うた子に教えられて浅瀬を渡る」とは正にこのような時に使う言葉なのでしょう。

2021 年は丑年です。一歩ずつ着実に前進

できる 1 年にしていきましょう。2021 年が皆様にとって素晴らしい 1 年になりますことを祈念します。  
(T.I.)



**【重要】** JACET(大学英語教育学会)

中国・四国支部ニューズレターの配信について

支部長 岩井 千秋 (広島市立大学)

中国・四国支部では、支部会員の皆様により迅速な情報提供を図るべく、2014年度よりメールにてニューズレターを配信しています。お知り合いの会員の中で、まだ登録をされていない方がおられましたら、下記要領にて登録をされますよう、お知らせください。ご協力の程、どうぞよろしく願いいたします。

1. 支部 HP  
(<http://jacet.edu.yamaguchi-u.ac.jp>) にアクセスする。

2. 入力フォームのサイトのページ  
(<http://ws.formzu.net/fgen/S61768122/>) に入る。

3. ウェブの入力フォームに下記の情報を入力する。

・支部のメーリングリストに登録を希望しますか？

すでに登録している

希望する

希望しない

(※すでに事務局からのメールが届いている方は登録済みです。)

・登録を希望するメールアドレス  
※ニューズレターはメール送信とともに、支部ホームページでも公開します。

なお、上記の作業についてご不明な点がありましたら、事務局幹事の岩中 ([iwanaka@y-gakugei.ac.jp](mailto:iwanaka@y-gakugei.ac.jp)) までお問い合わせください。

**メールアドレスを変更された方は、事務局までお知らせください。**

JACET 中国・四国 Newsletter 第26号

2021年1月10日 発行

発行人 : JACET 中国・四国支部(支部代表 岩井 千秋)

編集 : JACET 中国・四国支部 岩中 貴裕

発行所 : 〒754-0032 山口市小郡みらい町一丁目7番1号 山口学芸大学 教育学部教育学科  
岩中 貴裕

連絡先 : Tel:083-972-3288 FAX:083-972-4145 E-mail: [iwanaka@y-gakugei.ac.jp](mailto:iwanaka@y-gakugei.ac.jp)